

2015年度

前期コースデザイン

Course Description of Lectures
(First Semester)

名古屋大学理学部数理学科
名古屋大学大学院多元数理科学研究科

(2015年4月1日)

2015年度前期コースデザイン目次

数理学科

1年

数学展望 I	糸 健太郎	3
数学演習 I	笹平 裕史, 川谷 康太郎, 永田 義一, 中塚 智之, 矢代 好克	4

2年

現代数学基礎 AI	稲浜 譲	5
現代数学基礎 BI	行者 明彦	6
現代数学基礎 CI	伊師 英之	7
数学演習 III・IV	佐藤 猛, 笹原 康浩, YLC特任助教	8

3年

代数学要論 I	古庄 英和	9
幾何学要論 I	白水 徹也	10
解析学要論 I	菱田 俊明	11
解析学要論 II	吉田 伸生	12
数学演習 VII・VIII	永尾 太郎, 大久保 俊	13
数学演習 IX・X	鈴木 浩志, 久本 智之	14

4年

数理科学展望 III	山上 滋, 吉田 伸生, 糸 健太郎	15
Perspectives in Mathematical Sciences III	Shigeru Yamagami, Nobuo Yoshida, Kentaro Ito	16
	(Part 1) Shigeru Yamagami	17
	(Part 2) Nobuo Yoshida	18
	(Part 3) Kentaro Ito	19
代数学 I	藤原 一宏	20
代数学統論	谷川 好男	21
幾何学統論	太田 啓史	22
解析学 III	津川 光太郎	23
解析学統論	加藤 淳	24
確率論 I	林 正人	25
数理物理学 I	浜中 真志	26
数理解析・計算機数学 III	内藤 久資	27

3・4年

統計・情報数理 I	原 重昭	28
統計・情報数理 II	坪野 剛司, 渡部 善平, 久保 知行	29
応用数理 I	日比 政博, 盛田 洋光, 大島 光	30
	(その1) 日比 政博	31
	(その2) 盛田 洋光	32
	(その3) 大島 光	33

多元数理科学研究科

大学院

数理科学展望 I	山上 滋, 吉田 伸生, 糸 健太郎	45
Perspectives in Mathematical Sciences I	Shigeru Yamagami, Nobuo Yoshida, Kentaro Ito	46
(Part 1)	Shigeru Yamagami	47
(Part 2)	Nobuo Yoshida	48
(Part 3)	Kentaro Ito	49
代数学概論 V	藤原 一宏	50
代数学概論 I	谷川 好男	51
幾何学概論 I	太田 啓史	52
解析学概論 I	加藤 淳	53
解析学概論 II	津川 光太郎	54
確率論概論 I	林 正人	55
数理物理学概論 I	浜中 真志	56
数理解析・計算機数学概論 III	内藤 久資	57
幾何学特論 I	小林 亮一	58
関数解析特論 II	Serge Richard (セルジュ リシャール)	59
統計・情報数理概論 I	原 重昭	60
統計・情報数理概論 II	坪野 剛司, 渡部 善平, 久保 知行	61
社会数理概論 I	日比 政博, 盛田 洋光, 大島 光	62
(その 1)	日比 政博	63
(その 2)	盛田 洋光	64
(その 3)	大島 光	65

集中講義

応用数理特別講義 I	森 健策, 花蘭 誠, 松井 一, 山田 博司, 柳野 浩司	66
(その 1)	森 健策	67
(その 2)	花蘭 誠	68
(その 3)	松井 一	69
(その 4)	山田 博司	70
(その 5)	柳野 浩司	71
代数幾何学特別講義 II	石井 志保子 (東京大学大学院数理科学研究科)	72
解析学特別講義 I	古谷 康雄 (東海大学理学部)	73
幾何学特別講義 I	野原 雄一 (香川大学教育学部)	74
確率論特別講義 I	福島 竜輝 (京都大学数理解析研究所)	75
数理物理学特別講義 I	小玉 英雄 (KEK 理論センター & 総研大)	76
トポロジー特別講義 I	梶浦 宏成 (千葉大学大学院理学研究科)	77

《注 意 事 項》

統計・情報数理Iについて

統計・情報数理Iは8月24日～28日に集中講義として開講されます。

統計・情報数理IIについて

統計・情報数理IIは9月14日～18日に集中講義として開講されます。登録の際、担当教員名は「渡部善平」と記入してください。

数学演習Iについて

登録の際、担当教員名は「笹平裕史」と記入してください。

応用数理Iについて

登録の際、担当教員名は「金銅誠之」と記入してください。

応用数理特別講義Iについて

登録の際、担当教員名は「宇沢 達」と記入してください。

2015年度 前期	対象学年	3,4年	レベル	2	2単位	専門科目・選択
【科目名】 応用数理 I (3名の社外教員によるオムニバス形式)						
【担当教員】 日比 政博 (名古屋工業大学 大学院工学研究科, 前NECソフトウェア中部) 盛田 洋光 (エヌティーエンジニアリング(株)) 大島 光 (公益社団法人日本アクチュアリー会 正会員)						
【成績評価方法】 本科目全体での出席を重視する (全出席 = 55点 / 100点満点) . 教員評価点 = 各15点とし, 70点以上を合格とする 教員評価分: 毎回の演習および最終課題のレポート等						
【教科書および参考書】 各担当のページを参照のこと						
【講義の目的】						
<ul style="list-style-type: none"> ・本講義は, 「連携大学院制度(学外の高度な研究水準を持つ国立・民間の研究所などの施設・設備や人的資源を活用する大学院教育)」に基づいた講義であり, IT分野や金融分野のビジネス現場で行われていることの一端を学習・疑似体験する事を通じて, 数学的資質や思考法が企業においてどのように用いられるかを, 直接学ぶことを目的とする. また, 社会人の視点に触れることで, 数学を学習・研究する意義を再認識し, 新たな応用を考える契機とすることを期待する. ・講義は3名によるオムニバス形式とし, 机上演習, 実機演習, グループ演習, 発表(プレゼンテーション), 討議なども含む. 詳細は, 各担当のページを参照のこと 						
【講義予定】						
<ul style="list-style-type: none"> ・3名の担当が各5日実施. 詳細は, 各担当のページを参照のこと. ・担当者の業務都合により, 変更になることがあるので, 注意のこと. ・学生の理解度・出席状況等により, 講義内容を変更することがあるので, 注意のこと. ・講義の初日(4/10(金))の最初20分程度で, 「第0回」として, 本講義の全体説明を実施するので, 受講希望者(含学部生)は, 必ず出席のこと. 						
【キーワード】 各担当のページを参照のこと.						
【履修に必要な知識】 各担当のページを参照のこと.						
【他学科学生の聴講】 基本的に歓迎します. 詳細は, 各担当のページを参照のこと.						
【履修の際のアドバイス】						
<ul style="list-style-type: none"> ・各担当のページを参照のこと. ・企業人による講義なので, 教科書等に書かれていること学ぶためというより, 企業人の思考方法やビジネス・センスを直接肌で感じるための講義と考えること. ・オフィスアワーは無いので, 講義後の時間やメールなどを利用すること. 						
【連携大学院ホームページ】						
[多元数理科学研究科ホームページ] → [教育・就職] → 教務関係 [連携大学院]						
担当教員連絡先	研究科内の連携大学院担当 金銅 誠之 kondo@math.nagoya-u.ac.jp					

2015年度 前期	対象学年	3,4年	レベル	2	計2単位	専門科目・選択
<p>【科目名】 応用数理I (その1) (3名の社外教員によるオムニバス形式) ITシステム事例紹介とスマートグリッド解説&プロジェクトマネジメント解説</p>						
<p>【担当教員】 日比 政博 (名古屋工業大学 大学院工学研究科, 前NECソフトウェア中部) (登録の際, 担当教員名は, 金銅誠之と記入のこと)</p>						
<p>【成績評価方法】 授業の出席・発言状況および最終課題のレポートにより評価します.</p>						
<p>【教科書および参考書】 講義資料は, 担当者が作成・用意します. 参考書は, 講義内で適宜紹介します.</p> <p>【講義の目的】 最初に講師が担当してきたITシステム事例紹介を通してシステムエンジニア(SE)の役割を解説します. その後講師が現在担当しているスマートグリッドに関する解説と現状および今後の動向・その重要性を説明します. 最後にITシステムのプロジェクトマネジメントのポイントを解説します.</p> <p>【講義予定】 担当者の業務都合により, 変更になることがあります. また, 詳しい講義予定(シラバス)は, 第1回目の講義で配布します.</p> <p>第0回 4/10 (金) 連携大学院全体説明(必ず出席して下さい)</p> <p>第1回 4/10 (金) 担当システム&GISシステム事例紹介</p> <p>第2回 4/17 (金) クラウドシステム事例紹介</p> <p>第3回 4/24 (金) スマートグリッド解説1</p> <p>第4回 5/1 (水) スマートグリッド解説2</p> <p>第5回 5/8 (金) プロジェクトマネジメント解説</p> <p>【キーワード】 システムエンジニア, GIS, クラウドシステム, スマートグリッド, プロジェクトマネジメント</p> <p>【履修に必要な知識】 コンピュータに関する知識やプログラミング言語に関する知識・経験は仮定しません.</p> <p>【他学科学生の聴講】 大学院・学部を問わず, 他学科の学生の参加を歓迎します.</p> <p>【履修の際のアドバイス】 ITシステムは今後も益々社会全体で重要になっていきます. そのようなITシステム構築に興味のある方には講師の長いSE経験からのアドバイスが今後の進路決定に役立つと思います.</p>						
担当教員連絡先		renkei-hibi@math.nagoya-u.ac.jp				

2015年度 前期	対象学年	3,4年	レベル	2	計2単位	専門科目・選択
<p>【科目名】 応用数理I(その2) (3名の社外教員によるオムニバス形式) 線形代数と OCaml で見える切削加工を中心とした製造業のエンジニアリングビジネス</p>						
<p>【担当教員】 盛田 洋光 (エヌティーエンジニアリング(株)) (登録の際, 担当教員名は, 金銅誠之と記入のこと)</p>						
<p>【成績評価方法】 出席と実習結果・レポートで評価します.</p>						
<p>【教科書および参考書】 講義資料および OCaml, Coq の実習用サンプルプログラムは, 担当者が作成・用意します. 参考書は, 講義内で適宜紹介します.</p> <p>【講義の目的】 製造業では機械工学の知識を理解し, 装置を運用することが重要です. 私の主な業務は「装置の振動」が「装置の運用」にどのような影響を与えるかを機械工学のモデルに従って調査・推定し, それを改善する方法を提案することですが, これらに関して事例紹介と計算機での簡単な実習を通じて, 「モノづくりビジネスでの話題と課題」を紹介することを目的にします.</p> <p>3限目: 名大工学部をはじめとする工学系研究科や関連企業の訪問を通じて得られた話題の紹介</p> <p>4限目: OCaml を用いた機械工学で話題になる数値計算などの実習, Coq による計算機実習</p> <p>【講義予定】 担当者の業務都合により, 変更になることがあります. また, 詳しい講義予定(シラバス) は, 第1回目の講義で配布します.</p> <p>第0回 4 / 10 (金) 連携大学院全体説明 (必ず参加してください)</p> <p>第1回 5 / 15 (金) モノづくりビジネスの紹介/OCaml, LablGL</p> <p>第2回 5 / 22 (金) 工作機械見学 / 機械加工の単純なモデル化, Coq による証明例</p> <p>第3回 5 / 29 (金) 機械構造と振動 / Runge-Kutta 法, Newmark-β 法, 分数微分方程式</p> <p>第4回 6 / 12 (金) 切削加工と遅れを含む微分方程式 / 切削加工の安定性</p> <p>第5回 6 / 19 (金) エンジニアリングビジネスの「極意」=可視化と問題解決手段</p> <p>特別回 6月頃 名大工学部, 理学部装置開発室見学</p> <p>【キーワード】 離散 Fourier 変換, 振動の微分方程式 (Runge-Kutta 法, Newmark-β 法), 分数微分方程式, マルチボディーダイナミクス, 遅れを含む微分方程式 (analytical method, semi-discretization method), プログラミング言語 OCaml, 定理証明支援系言語 Coq</p> <p>【履修に必要な知識】 特にありません (線形代数と初歩的な微分積分)</p> <p>【他学科学生の聴講】 大学院・学部を問わず, 他学科の学生の参加を歓迎します.</p> <p>【履修の際のアドバイス】 4限目の計算機実習では理学部・理学研究科・多元数理科学研究科サテライトラボを利用します. アカウントとパスワードの確認をお願いします. 実際のビジネスでは「決まった時間会社に居て, 課題を決めて対応する」サイクルに従って業務をすすめることとなります. 本講義は全体で3時間×15回=45時間ですが, 社会人になってからは1週間をこのサイクルに従って過ごすことになると思います. その際の指針になればと思います.</p>						
担当教員連絡先		renkei-morita@math.nagoya-u.ac.jp				

2015年度 前期	対象学年	3,4年	レベル	2	計2単位	専門科目・選択
<p>【科目名】 応用数理 I (その3) (3名の社外教員によるオムニバス形式) アクチュアリーの実務 —入門編—</p>						
<p>【担当教員】 大島 光 (公益社団法人日本アクチュアリー会 正会員) (登録の際, 担当教員名は, 金銅誠之と記入のこと)</p>						
<p>【成績評価方法】 本科目全体での出席を重視する. 演習問題で問われている課題の理解度および課題解決力ならびにグループ内におけるコミュニケーション能力および説明力を評価の対象とします.</p>						
<p>【教科書および参考書】 講義資料は, 担当者が作成・用意またはWEBから入手します. 参考書は, 講義内で適宜紹介します.</p> <p>【講義の目的】 数学的思考力を実社会でいかに活かすことができるか.</p> <p>【講義予定】 担当者の業務都合により, 変更になることがあります. また, 詳しい講義予定(シラバス)は, 第1回目の講義で配布します. なお, 講義(第1回~第5回)は理学部サテライトラボ(理学部A館2階A250室)で行ないます.</p> <p>第0回 4 / 1 0 (金) 連携大学院全体説明(必ず出席して下さい)</p> <p>第1回 6 / 2 6 (金) アクチュアリーとは</p> <p>第2回 7 / 3 (金) 保険料と責任準備金</p> <p>第3回 7 / 8 (水) 商品開発(保険料算出の実務)</p> <p>第4回 7 / 1 0 (金) 支払備金</p> <p>第5回 7 / 1 7 (金) まとめ(演習)</p> <p>【キーワード】 安全割増, 信頼水準, 信頼性理論, 複合ポアソン分布, 検定</p> <p>【履修に必要な知識】 確率・統計論(基礎レベル), 表計算ソフト(Excel推奨)スキル(初中級レベル. プログラミング能力は不要)</p> <p>【他学科学生の聴講】 大学院・学部を問わず, 他学科の学生の参加を歓迎します.</p> <p>【履修の際のアドバイス】 数多くの理系学科出身者が「アクチュアリー」として活躍しています. その実務を少しでも理解することで, 将来の進路を考える上での一助となることを希望しています.</p>						
担当教員連絡先		renkei-oshima@math.nagoya-u.ac.jp				

《注 意 事 項》

統計・情報数理概論Iについて

統計・情報数理概論Iは8月24日～28日に集中講義として開講されます。

統計・情報数理概論IIについて

統計・情報数理概論IIは9月14日～18日に集中講義として開講されます。登録の際、担当教員名は「渡部善平」と記入してください。

社会数理概論Iについて

登録の際、担当教員名は「金銅誠之」と記入してください。

応用数理特別講義Iについて

登録の際、担当教員名は「宇沢 達」と記入してください。

2015年度 前期	対象学年	大学院	レベル	2	2単位	A類I (基礎科目)
【科目名】 社会数理概論 I (3名の社外教員によるオムニバス形式)						
【担当教員】 日比 政博 (名古屋工業大学 大学院工学研究科, 前NECソフトウェア中部) 盛田 洋光 (エヌティーエンジニアリング(株)) 大島 光 (公益社団法人日本アクチュアリー会 正会員)						
【成績評価方法】 本科目全体での出席を重視する (全出席 = 55点 / 100点満点) . 教員評価点 = 各15点とし, 70点以上を合格とする 教員評価分: 毎回の演習および最終課題のレポート等						
【教科書および参考書】 各担当のページを参照のこと						
【講義の目的】 <ul style="list-style-type: none"> ・本講義は, 「連携大学院制度(学外の高度な研究水準を持つ国立・民間の研究所などの施設・設備や人的資源を活用する大学院教育)」に基づいた講義であり, IT分野や金融分野のビジネス現場で行われていることの一端を学習・疑似体験する事を通じて, 数学的資質や思考法が企業においてどのように用いられるかを, 直接学ぶことを目的とする. また, 社会人の視点に触れることで, 数学を学習・研究する意義を再認識し, 新たな応用を考える契機とすることを期待する. ・講義は3名によるオムニバス形式とし, 机上演習, 実機演習, グループ演習, 発表(プレゼンテーション), 討議なども含む. 詳細は, 各担当のページを参照のこと 						
【講義予定】 <ul style="list-style-type: none"> ・3名の担当が各5日実施. 詳細は, 各担当のページを参照のこと. ・担当者の業務都合により, 変更になることがあるので, 注意のこと. ・学生の理解度・出席状況等により, 講義内容を変更することがあるので, 注意のこと. ・講義の初日(4/10(金))の最初20分程度で, 「第0回」として, 本講義の全体説明を実施するので, 受講希望者(含学部生)は, 必ず出席のこと. 						
【キーワード】 各担当のページを参照のこと.						
【履修に必要な知識】 各担当のページを参照のこと.						
【他大学院生の聴講】 基本的に歓迎します. 詳細は, 各担当のページを参照のこと.						
【履修の際のアドバイス】 <ul style="list-style-type: none"> ・各担当のページを参照のこと. ・企業人による講義なので, 教科書等に書かれていること学ぶためというより, 企業人の思考方法やビジネス・センスを直接肌で感じるための講義と考えること. ・オフィスアワーは無いので, 講義後の時間やメールなどを利用すること. 						
【連携大学院ホームページ】 [多元数理科学研究科ホームページ] → [教育・就職] → 教務関係 [連携大学院]						
担当教員連絡先	研究科内の連携大学院担当 金銅 誠之 kondo@math.nagoya-u.ac.jp					

2015年度 前期	対象学年	大学院	レベル	2	計2単位	A類I(基礎科目)
<p>【科目名】 社会数理概論 I (その1) (3名の社外教員によるオムニバス形式) ITシステム事例紹介とスマートグリッド解説&プロジェクトマネジメント解説</p>						
<p>【担当教員】 日比 政博 (名古屋工業大学 大学院工学研究科, 前NECソフトウェア中部) (登録の際, 担当教員名は, 金銅誠之と記入のこと)</p>						
<p>【成績評価方法】 授業の出席・発言状況および最終課題のレポートにより評価します.</p>						
<p>【教科書および参考書】 講義資料は, 担当者が作成・用意します. 参考書は, 講義内で適宜紹介します.</p> <p>【講義の目的】 最初に講師が担当してきたITシステム事例紹介を通してシステムエンジニア(SE)の役割を解説します. その後講師が現在担当しているスマートグリッドに関する解説と現状および今後の動向・その重要性を説明します. 最後にITシステムのプロジェクトマネジメントのポイントを解説します.</p> <p>【講義予定】 担当者の業務都合により, 変更になることがあります. また, 詳しい講義予定(シラバス)は, 第1回目の講義で配布します.</p> <p>第0回 4/10(金) 連携大学院全体説明(必ず出席して下さい)</p> <p>第1回 4/10(金) 担当システム&GISシステム事例紹介</p> <p>第2回 4/17(金) クラウドシステム事例紹介</p> <p>第3回 4/24(金) スマートグリッド解説1</p> <p>第4回 5/1(水) スマートグリッド解説2</p> <p>第5回 5/8(金) プロジェクトマネジメント解説</p> <p>【キーワード】 システムエンジニア, GIS, クラウドシステム, スマートグリッド, プロジェクトマネジメント</p> <p>【履修に必要な知識】 コンピュータに関する知識やプログラミング言語に関する知識・経験は仮定しません.</p> <p>【他大学院生の聴講】 大学院・学部を問わず, 他学科の学生の参加を歓迎します.</p> <p>【履修の際のアドバイス】 ITシステムは今後も益々社会全体で重要になっていきます. そのようなITシステム構築に興味のある方には講師の長いSE経験からのアドバイスが今後の進路決定に役立つと思います.</p>						
担当教員連絡先		renkei-hibi@math.nagoya-u.ac.jp				

2015年度 前期	対象学年	大学院	レベル	2	計2単位	A類I (基礎科目)
<p>【科目名】 社会数理概論 I (その2) (3名の社外教員によるオムニバス形式) 線形代数と OCaml で見える切削加工を中心とした製造業のエンジニアリングビジネス</p>						
<p>【担当教員】 盛田 洋光 (エヌティーエンジニアリング(株)) (登録の際, 担当教員名は, 金銅誠之と記入のこと)</p>						
<p>【成績評価方法】 出席と実習結果・レポートで評価します.</p>						
<p>【教科書および参考書】 講義資料および OCaml, Coq の実習用サンプルプログラムは, 担当者が作成・用意します. 参考書は, 講義内で適宜紹介します.</p> <p>【講義の目的】 製造業では機械工学の知識を理解し, 装置を運用することが重要です. 私の主な業務は「装置の振動」が「装置の運用」にどのような影響を与えるかを機械工学のモデルに従って調査・推定し, それを改善する方法を提案することですが, これらに関して事例紹介と計算機での簡単な実習を通じて, 「モノづくりビジネスでの話題と課題」を紹介することを目的にします.</p> <p>3限目: 名大工学部をはじめとする工学系研究科や関連企業の訪問を通じて得られた話題の紹介</p> <p>4限目: OCaml を用いた機械工学で話題になる数値計算などの実習, Coq による計算機実習</p> <p>【講義予定】 担当者の業務都合により, 変更になることがあります. また, 詳しい講義予定(シラバス) は, 第1回目の講義で配布します.</p> <p>第0回 4 / 10 (金) 連携大学院全体説明 (必ず参加してください)</p> <p>第1回 5 / 15 (金) モノづくりビジネスの紹介/OCaml, LablGL</p> <p>第2回 5 / 22 (金) 工作機械見学 / 機械加工の単純なモデル化, Coq による証明例</p> <p>第3回 5 / 29 (金) 機械構造と振動 / Runge-Kutta 法, Newmark-β 法, 分数微分方程式</p> <p>第4回 6 / 12 (金) 切削加工と遅れを含む微分方程式 / 切削加工の安定性</p> <p>第5回 6 / 19 (金) エンジニアリングビジネスの「極意」 = 可視化と問題解決手段</p> <p>特別回 6月頃 名大工学部, 理学部装置開発室見学</p> <p>【キーワード】 離散 Fourier 変換, 振動の微分方程式 (Runge-Kutta 法, Newmark-β 法), 分数微分方程式, マルチボディーダイナミクス, 遅れを含む微分方程式 (analytical method, semi-discretization method), プログラミング言語 OCaml, 定理証明支援系言語 Coq</p> <p>【履修に必要な知識】 特にありません (線形代数と初歩的な微分積分)</p> <p>【他大学院生の聴講】 大学院・学部を問わず, 他学科の学生の参加を歓迎します.</p> <p>【履修の際のアドバイス】 4限目の計算機実習では理学部・理学研究科・多元数理科学研究科サテライトラボを利用します. アカウントとパスワードの確認をお願いします. 実際のビジネスでは「決まった時間会社に居て, 課題を決めて対応する」サイクルに従って業務をすすめることとなります. 本講義は全体で3時間×15回=45時間ですが, 社会人になってからは1週間をこのサイクルに従って過ごすことになると思います. その際の指針になればと思います.</p>						
担当教員連絡先		renkei-morita@math.nagoya-u.ac.jp				

2015年度 前期	対象学年	大学院	レベル	2	計2単位	A類I (基礎科目)
<p>【科目名】 社会数理概論 I (その3) (3名の社外教員によるオムニバス形式) アクチュアリーの実務 —入門編—</p>						
<p>【担当教員】 大島 光 (公益社団法人日本アクチュアリー会 正会員 (登録の際, 担当教員名は, 金銅誠之と記入のこと)</p>						
<p>【成績評価方法】 本科目全体での出席を重視する. 演習問題で問われている課題の理解度および課題解決力ならびにグループ内におけるコミュニケーション能力および説明力を評価の対象とします.</p>						
<p>【教科書および参考書】 講義資料は, 担当者が作成・用意またはWEBから入手します. 参考書は, 講義内で適宜紹介します.</p>						
<p>【講義の目的】 数学的思考力を実社会でいかに活かすことができるか.</p>						
<p>【講義予定】 担当者の業務都合により, 変更になることがあります. また, 詳しい講義予定(シラバス)は, 第1回目の講義で配布します. なお, 講義(第1回~第5回)は理学部サテライトラボ(理学部A館2階A250室)で行ないます.</p> <p>第0回 4 / 1 0 (金) 連携大学院全体説明(必ず出席して下さい)</p> <p>第1回 6 / 2 6 (金) アクチュアリーとは</p> <p>第2回 7 / 3 (金) 保険料と責任準備金</p> <p>第3回 7 / 8 (水) 商品開発(保険料算出の実務)</p> <p>第4回 7 / 1 0 (金) 支払備金</p> <p>第5回 7 / 1 7 (金) まとめ(演習)</p>						
<p>【キーワード】 安全割増, 信頼水準, 信頼性理論, 複合ポアソン分布, 検定</p>						
<p>【履修に必要な知識】 確率・統計論(基礎レベル), 表計算ソフト(Excel推奨)スキル(初中級レベル. プログラミング能力は不要)</p>						
<p>【他大学院生の聴講】 大学院・学部を問わず, 他学科の学生の参加を歓迎します.</p>						
<p>【履修の際のアドバイス】 数多くの理系学科出身者が「アクチュアリー」として活躍しています. その実務を少しでも理解することで, 将来の進路を考える上での一助となることを希望しています.</p>						
担当教員連絡先		renkei-oshima@math.nagoya-u.ac.jp				